

2022年12月25日 クリスマス(降誕日)礼拝

メッセージ「クリスマス・プレゼントは誰に」

水谷憲牧師

聖書 創世記 1章1-5節、ヨハネによる福音書 1章1-9節

本日のクリスマス礼拝は、牛田牧師が急に体調を崩してしまわれたため、不肖私水谷が代役を務めさせていただいております。本日の題は「クリスマス・プレゼントは誰に」としてありますが、激務の中で倒れられた牛田牧師にとりまして、今日の私のこのつたないお話が、あるいは今日のこのクリスマス礼拝の中継、もちろんしんどい中で youtube なんて観てる余裕もないかもしれませんが、もしくは日々の働きから解放されて床の中での休息のひと時が、一つのクリスマス・プレゼントとなればと祈り願っておりますので、皆さまにも、お祈り合わせていただけたらと思っております。

さて、このクリスマス・シーズン、私はこの久宝教会と同じ体の一部であることも園でクリスマス礼拝に呼んでいただき、こんなお話をさせていただきました。

むかし昔。今から 1700 年くらい前、まだ電話もテレビも飛行機もなかった時代。ある国のある町に、3 人の娘がお父さんと一緒に暮らしていました。お父さんは病気で働けず、お家にはいつもお金がなかったので、娘たちは好きな人と結婚することもできなくて、お父さんも娘たちも悲しい気持ちでした。そんなあるクリスマスの日、暖炉の所に干してあった靴下の中から、たくさんお金の入った袋が見つかりました。「なんでこんなところにお金が入っているのだろう？もしかして、神様が私たちのことを見て助けてくれたのかしら？」不思議でしたが、とにかくそのお金のおかげで、少し生活も楽になり、一番上のお姉さんも結婚することができました。1年後のクリスマスの日、朝目覚めると、また靴下の中にお金の入った袋が入っています。「ああ神様がまた助けてくれた！神様、感謝します！」2番目のお姉さんも結婚することができました。そのまた1年後のクリスマスイブ、一番下の妹は夜中寝たふりをして待っていました。もしかしたら、今年も神様がうちに贈り物をくださるかもしれない。いや、本当に来て下さるだろうか？妹が、期待と不安でドキドキしながらまっぴらしていると、突然お金の入った袋が窓から投げ込まれて、暖炉のそばに干してあった靴下の中にスポッと入ったんです。妹はハッとして飛び起き、そうっと窓から外を見てみると、誰かが夜道を帰っていきます。誰だろう。あっ、あれは、ニコラウス様。神父さんだわ。そうです。それは、娘が住んでいた町の教会の神父さんでした。ニコラウス神父はそう

やって、いろんなことで困っている人たちの様子を見て、こっそり助けていたのです。そんな彼は、死んでから聖人となって聖ニコラウスとよばれるようになりました。そしてその話が様々な土地に伝わっていく段階で、例えばオランダ語では「シンタクラス」と呼ばれるようになったりして、少しずつなまって最終的に「サンタクロース」になったというわけです。このようにサンタさんは、もともとは困っている人や辛い思いをしている人の所に真っ先に来てくれる人だったんですね。クリスマスにお生まれになったイエスさまと一緒にですね。

つまりクリスマスは、小さい人・力のない人・悲しい気持ちの人たちがまず一番に大切にされる日なんです。みんなが一番に大切にされる日なんです。「メリー・クリスマス」っていう言葉は「クリスマスおめでとう」っていう意味のあいさつなんですけど、クリスマスが、小さい人・力のない人・悲しい気持ちの人たちがまず一番に大切にされる日なんだって考えると「クリスマスうれしいね!」っていう感じが近いかな。クリスマスうれしいね!メリークリスマス!

…っていうようなお話をさせていただいたんです。これは、子どもたちに向けた話なので、もちろん、小さくて力のない子どもたち、クリスマスはあなたたちが一番に大切にされる日なんですと、クリスマス・プレゼントは神様がサンタさんを通してあなたたちのために準備して下さっていることでしょう、うれしいよね、メリークリスマスだよねと、それはその通りだと思っています。ただ、子どもたちに対してはそれでよいけれども、このクリスマスという日について私たちが考える時、もう少し続きがあるように思うわけです。

確かに、これまでクリスマスに私自身強調してきたことは、クリスマスは貧しくて、力なく、小さく弱い人たちに真っ先に神様からの恵みが注がれる日だということ。「マリアの賛歌」でも歌われているような「身分の低い、この主のはしためにも目を留めて下さった、今から後、いつの世の人も私を幸いな者というでしょう」「主はその腕で力をふるい、思い上がる者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き下ろし、身分の低い者を高く上げ、飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます」というような日だということでした。

そしてクリスマスという日をそう考えた時、私たちのうちの良心的な人たちは「経済的にも社会的にも恵まれていないわけでもない私たち、クリスマスはそんな私たちのための日ではない、クリスマスにはもっと優先して恵まれるべき人々がいるから」と考えて、頭では分かっているけどちょっぴり寂しい思いをしたりしてはいな

いですか。また、私たちのうちの正義感の強い人たちは「罪を犯して反省の色もない犯罪者や大規模な戦争を起こした指導者、下々の苦しみを理解しない政治家や権力者たち、あるいはクリスマスの意味を履き違えてお祭り騒ぎをしているパリピ、リア充、クリスマスはあんな奴らのためにある日ではない」と腹立たしく思っていないですか。

でも違うんです。確かにクリスマスは、貧しい人、小さく弱くされている人たちのために神様が救い主を送ってくださった日でした。「今日ダビデの町で、あなた方のために救い主がお生まれになった」と天使たちは羊飼いたちに告げていました。それは羊飼いをはじめとする、虐げられている者、低く見られている者たちを指していました。しかし私は考えるんです。神様は、そんなに最初から恵みを注ぐ相手を決めておられたのであろうかと。確かに、神様もイエス様も貧しい者・力ない者に真っ先に目を留められる方ではあるけれども、そんな「貧しい」と「豊か」、「力がある」と「力がない」の境界線はどこにあるのか。果たして人間はそんな風に線引きして白黒判別できるものなのか。悩みや痛みを持たない人など、この世にいるのか。弱みを決して見せようとしらない人はいるけれども、弱い部分がない人など、本当にいるのか。そんな人、いないでしょう。その意味では、クリスマスは「来るか来ないか」ではなく「優先順位」の問題で、先になるか後になるかはともかく、サンタのプレゼントに象徴される神の恵みは、人間すべてに注がれるものだ、どんな人であっても贈られるものなんです、きっと。

「創世記」の1章、世界の初めにおいて、神は「光あれ」と言われ、昼と夜とをつくられました。光は、あらゆる所に注がれます。当たる側が光をさえぎったり光から逃れたりすることがなければ、光は平等に当てられます。同じことはイエス・キリストもかつて雨のたとえを用いて話しておられました。「父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる」。私たちが雨の日に傘をさすように、降り注ぐ恵みを自ら遮ることさえなければ、神の恵みは平等に降り注ぐんです。そして、クリスマスにお生まれになったイエス・キリストも、「ヨハネによる福音書」にあるように、神によって遣わされたまことの光でありました。その光は、貧しいマリアとヨセフ、羊飼いたち、外国人の博士たちから始まり、全世界を照らしてゆくのです。そして神の光であり言葉であるキリストのその言葉、例えば「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」とか「私はあなた方を孤児にはしておかない」とかいう言葉にしても、私たちがどんな者であろうと、強かろうが弱かろうが、貧しかろうが豊かであろうが、私たちが窮地に立たされた時、迷う時、

必ず私たちに励まし、支え、押し出してくれます。そんな経験がおありの方もあってはならないでしょうか。ですから、神の恵みは、クリスマス・プレゼントは、もらえるかももらえないかではなく、神の目からの優先順位、トリアージといいますか、どこから先にもらえるかという、そういうことなのだと思います。だから、私たちは心配しないでいい。私たちの所にも、必ずサンタは「遅くなってごめんねー（小声）」とあって、プレゼントをそっと届けてくれているはずですよ。私たちが自分でももらえないと決めつけて、贈られていることに気付いていないだけかもしれません。腹は立つけど、プーチンだって、リア充のパリピだって、クリスマスのプレゼントはきっと届いていることでしょう。彼らがそれに気付くかどうかは分かりません。気付かない可能性は高いですけど。でも神様はそういう方、もしも神様が本当に私たちの姿や行いによってそういう選別をされる方であれば、私たちの所にもサンタは来ないことでしょう。でもこんな私たちの所にもサンタを送って下さる、それが神様の愛なんです。羊飼いや外国人、当時の人々が「何であんな奴らが〜」と思っていたような人にこそ、神様の恵み・救いは真っ先に告げられた。それはつまり、私たちが「あんな奴ら…」と思うような者にこそ、神様は目を留められているかもしれない、ということ。そしてそれは逆に言うと、私たちが人からどのように思われているかわからんような者であったとしても、神様は目を留めてくださるということなんです。そういう神様の平等な愛に改めて感謝して、そりが合わん者もいるかもしれないしい、好かない者もいるかもしれないけれども、あらゆる隣人と共にこのクリスマスを喜びたいと思います。

メリー・クリスマス。クリスマスうれしいですね。